2022 年度
ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ in ちば
実施報告書

2022 年 12 月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

目　次

はじめに …… 1
実施概要 …… 2
スケジュール …… 3
ノンバーバル・コミュニケーションワークショップを実施して
庄﨑 隆志 …… 4
現代社会におけるノンバーバルコミュニケーションの重要性
メイミ …… 7
プログラム概要　畑町ガーデン（午前の部）…… １２
参加者の感想 …… １３
プログラム概要　畑町ガーデン（午後の部）…… １４
参加者の感想 …… １５
特定寄付金協力謝礼 …… １６
編集後記 …… １７

はじめに

当基金では、2011 年の東日本大震災後の福島の障害のある子どもたちへの取組として、「ふくしまっこキャンプ」と題した活動を福島から関東へお招きをして、2012 年度から続けてまいりました。

2015 度は、福島県内において活動できる内容として、養護学校中心にノンバーバル（非言語）コミュニケーションワークショップと題した、子どもたち同士がよりよくコミュニケーションを図るきっかけとして、楽しみながら体験していただくために開催しました。また翌年も、福島県内の障害のある子どもが通う特別支援学校や障害者施設でワークショップを行い、地域の中で支えあうつながりを強くすることができないかという目的のもと、２日間で４施設を訪問させていただきました。

2017 年度は、前年４月に発災した熊本地震の被災地域にある障害者団体を３施設訪問させていただき、併せて、同時期に開催された第 66 回全九州ろうあ者大会と協働し、研修会とアトラクションの中で、実施致しました。そして 2018 年度は、三陸沿岸各地で道路が開通され、復興の歩みを進めておられる宮城県の石巻市・女川町と北海道胆振東部地震で被災された北海道胆振及び札幌市の障害者施設を中心に実施し、2019 年度は、前年７月の西日本豪雨において被害にあわれた広島市の障害のある方々に対して実施致しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となってしまった千葉市の施設でノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションについての学びの場と致しました。

2022 年 12 月

公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金

実　施　概　要

ノンバーバル・コミュニケーションワークショップ　in ちば

1. 目　的　　ノンバーバル・コミュニケーションワークショップは、言葉を使わずになかなか伝わらないもどかしさを感じながら、じっくりと相手と向き合うための空間です。そこから、自分らしい伝え方、伝えられ方を学び合う場として、当基金は、２０１１年度より東日本大震災等の被災地を対象として活動を実施して参りました。
今年度は、2019 年 10 月の台風 15 号等の豪雨災害により被害にあわれた千葉県内の施設に、新たな出会いとコミュニケーションについて考える場をつくり、障害や障害のある人への理解が深まることを目的に実施致しました。

2. 日　時　　2022 年 12 月 12 月（月）
3. 場　所　　畑町ガーデン（千葉県千葉市花見川区）
4. 主　催　　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金
5. 後　援　　千葉市 /（福）千葉市社会福祉協議会
6. ファシリテーター　庄﨑隆志さん　office 風の器主宰・俳優・演出家
メイミさん　　漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長

～スケジュール～

12 月 12 日

【午前の部】
9:20 畑町ガーデン到着
10:00 ワークショップ開始→ご挨拶
自己紹介 / 拍手 / 手拍子
スティックバルーンでショー
10:10 早着替え / メイミパフォーマンス
10:15 変身ショー / 皿まわし / パントマイム
庄﨑パフォーマンス
10:30 ミラーリング / ダンス / ポーズ他
10:50 海のオーケストラ　チェロ
10:55 ワークショップ終了

【午後の部】
13:25 ワークショップ開始
拍手 / 手拍子 / 自己紹介
13:30 ポーズ / フリーダンス
13:40 早着替え / 変身ショー / メイミパフォーマンス
13:50 庄﨑パフォーマンス / ミラーリング / 皿まわし
14:00 エアボール / エアなわとび
海のオーケストラ　チェロ
14:20 ワークショップ終了

ノンバーバル・コミュニケーションワークショップを実施して

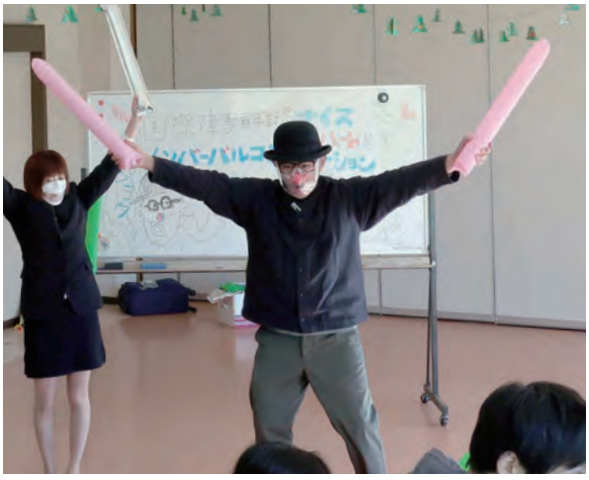
庄崎 隆志
Takashi Shozaki

数年ぶりにノンバーバル・コミュニケーションワークショップを実施していただきました。３年前からコロナ禍の影響で対面ワークショップが減ってしまいました。最近、オンラインワークショップが続き、マスクのせいで誰かの顔、表情を見る機会が減ってしまい、さみしい思いをしましたが、今回は久しぶりの対面ワークショップの中で利用者の表情が最も輝いて見ることができ、とても感激しました。

メイミさんと私は、身体表現や表情、ミラーリング、皿回しなどをフルに使い、それに利用者が触発されて、利用者も皆さんの前にさりげなく立ってもらい、見せるように

積極的にこなし、利用者同士のからだの動きで盛り上がりました。利用者の名演技がすばらしかったです。いろいろと考えさせられたワークショップで貴重な経験をさせて頂きありがたい限りです。

ファシリテーターとしても、今回の対面ワークショップを通じて、表情一つ一つが誰かと繋がる大切なツールなのだと気が付かされました。そして、利用者のためのワークショップだけではなく、施設の職員の方たちも笑顔が作れるワークショップの必要性を知ってもらうことが大事で、いろんな仲間と関わる力をお互いに育んでいけることを実感してもらえたら嬉しいです。きこえない自分の人生において目からの情報、ノンバーバルコミュニケーションがとても重要で、それを重視してきたため、オンラインではなく対面ワークショップはとても新鮮で改めて楽しかったです。

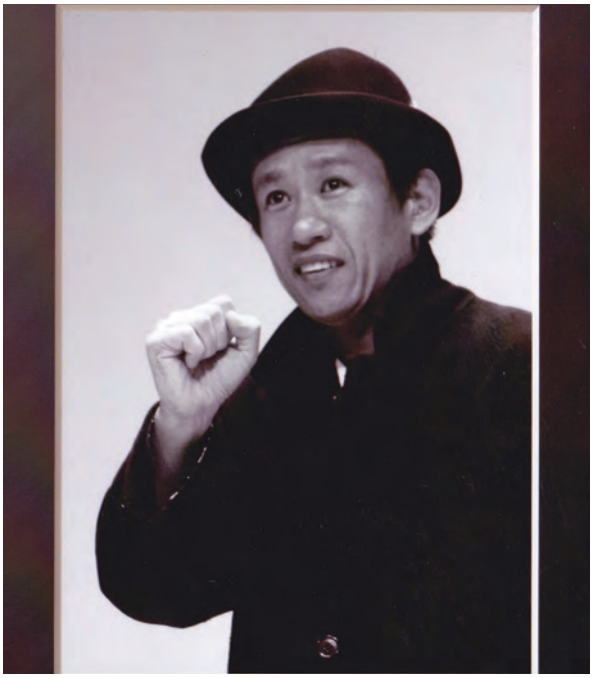


ノンバーバルコミュニケーションって自由に発想しやすいので、楽しく笑って、癒して、工夫しているうちに、自然と表現力やコミュニケーション能力が身につくと思います。

この対面ワークショップをいろんな福祉施設

にお届けしたいです！

　最後に畑町ガーデンの皆さん、国際障害者年記念ナイスハート基金の皆さん、メイミさん、素晴らしい機会をいただけましたことを心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました！



庄﨑隆志

演出家・劇作家・舞台俳優・ノンバーバルコミュケーター

舞台俳優・日本演出者協会会員・日本劇作家協会会員・ｏｆｆｉｃｅ風の器主宰元デフ・パペットシアター・ひとみ代表・創立メンバー（１９８１～２００４）

１９６１年東京杉並区生まれ。現在淡路島在住。身体で人間を表現する「コトバ」を超えた表現者であり、劇作家、演出も手掛ける。１９８１年より全国各地７５０箇所２５００ステージ、欧州、米国、アジア等１４ヶ国公演を経験。『オルフェウス』『ＵＫＩＹＯＥ』『里亞王～リア～』『真夏の夜の夢』『波無烈斗～ハムレット』等シアターＸ提携公演、横浜赤レンガ倉庫・俳優座劇場・横浜ランドマークタワー・前進座劇場・世田谷パブリックシアターなど演出という実績を持つ。大学、企業、文化庁の演劇大学、国際障害者年記念ナイスハート基金、日本劇作家大会などでノンバーバル演劇（非言語）ワークショップ、身体表現の講座などの活動を続けている。平成２２年度横浜文化賞・文化芸術奨励賞受賞。第１～９回全国高校生手話パフォーマンス甲子園審査員長

現代社会における
ノンバーバルコミュニケーションの重要性

メイミ

Meimi

多様性の尊重、コロナウイルス感染症の流行等ここ数年の情勢を背景にノンバーバルコミュニケーションの重要性をより深く感じています。
２０２２年12月、３年半ぶりとなるノンバーバル・コミュニケーションワークショップでした。千葉市にある多機能型施設にて午前・午後と２回、各回２５名程が集まり開催しました。

今回も庄﨑さんと共にファシリテーターを担い、リアルでお会いするのは前回のワークショップ以来です。

　この３年半、お互いに思い思いの年月を過ごし、それぞれにコミュニケーションのあり方について、実生活で経験を深めての再会でした。

　いつもながら事前の打ち合わせは簡単に、あまりプログラムを細かく決めず、当日の状況を見ながら進めようということで話し合いました。

　それぞれが準備した小道具やできることなどを伝え、あとはぶっつけ本番。

　改めて思いますが、ワークショップで行うプログラムはコミュニケーション手段の一つなんですよね。目の前にいる相手と言葉を越え、心通わすコミュニケーションを取る為に、体・表情・空気、それを補助する小道具などを使って働きかけるということです。なので、やはり事前にプログラムを決めて臨むということは難しいと思うのです。これは誰もが日常生活でも似たような経験があるのではないでしょうか。コミュニケーションには臨機応変な対応力が必要です。それは様々なコミュニケーションの機会を経験することで学び身に付くものだと思います。

さて、１回目、２回目とそれぞれ違った雰囲気のワークショップでした。

１回目はスティックバルーンという棒状の叩くと音がする風船を使用しました。バルーンの音が鳴り響き、またバルーンを自由に動かすダンスやその動きを何か他の物に見立てて使ったり、バルーンが大活躍でした。

しかしながら、一度手にするとバルーンでのコミュニケーション方法に終始してしまう為、２回目は使用せずエアーキャッチボール、縄跳び、スカーフを使ったダンスなど更にコミュニケーションの幅を広げて実施しました。

今回はコロナ渦での開催ということで、以前のようにハイタッチなどのスキンシップはできず、距離を取りながらのコミュニケーションでした。

「手と手は重ねられないけれど、心と心は繋がりたい」そんな想いを持って、マスクの上に覗く「目」アイコミュニケーションを意識して、目で語りかけました。

今はマスク生活の日々で、コミュニケーションに大切な表情の半分が隠れています。

コロナ渦でのコミュニケーションには、難しさを感じますよね。

そんなとき、ノンバーバルコミュニケーションの一つ、アイコミュニケーションはとても大切ですね。「目は口ほどに物を言う」なんてことわざもあるくらい、目に人の心が表れると思います。

今回もお一人お一人の瞳には、キラキラとした期待の眼差しや、少し不安に伏し目がちな方、エネルギーに満ち溢れた力強い目、優しさが宿る瞳、それぞれの心が表れていました。

体を使って大きく動くコミュニケーションも面白いですが、目と目で会話する繊細なコミュニケーションのやり取りもまた良いものです。

我が家には４歳のダウン症の息子が居ます。言葉の発達が緩やかなので、ノンバーバルコミュニケーションが大いに役立ちます。

ワークショップでの皆様との新たな出会いと経験が、また日常に活かされています。同じように、ご参加の皆様の日常にも今回のノンバーバルコミュニケーションの体験が人との繋がりの中で活かされると嬉しく思います。

まだまだ社会の中では、「言語コミュニケーション」の可否を理由に障害者の社会参加を妨

げられることが少なくありません。

　言葉はなくともコミュニケーションは取れると言うことを多くの人に知ってほしいと願います。

メイミ

漫談家・介護福祉士・NPO 法人笑顔工場理事長。港区登録手話通訳者。

都内デイサービスセンター勤務の経験を活かし、全国各地の福祉大会や学校、介護セミナー、一般向けのイベント等、幅広い場で講演活動を行なう一方、ＮＰＯ法人を立ち上げ、芸人・歌手・パフォーマー等各分野のエンターティナーの協力を得ながら高齢者施設、障害者施設、福祉イベント等での催しを開催。自身も演芸の舞台に立ち、介護福祉のリアルを漫談で伝えている。更に、港区登録手話通訳者 手話パフォーマンス、障害者スポーツ大会での司会やパフォーマンス、養護学校でのワークショップ講師等、障害者福祉との関わりも深い。モットーは「笑って長生き」「笑顔は副作用のない魔法のお薬」

プログラム概要【午前の部】

畑町ガーデン　１２月１２日（月）

時間	プログラム	写真
１０：００～	ワークショップ開始 ご挨拶 自己紹介 / 拍手 / 手拍子 スティックバルーンでショー	
１０：１０～	早着替え メイミパフォーマンス	
１０：１５～	変身ショー パントマイム 皿まわし 庄﨑パフォーマンス	
１０：３０～	ミラーリング ダンス ポーズ他	
１０：５０～ １０：５５	海のオーケストラ　チェロ ワークショップ終了 【参加者合計２５名】	

参加者の感想【午前の部】

畑町ガーデン　１２月１２日（月）

この度はノンバーバルコミュニケーションワークショップを開催して頂きありがとうございました。事前に確認した資料で初めてノンバーバルコミュニケーションという手法を知り、当日はどのようなイベントとなるか、参加される入所者の方達と共に胸を躍らせていました。

実際にワークショップが始まってからは、普段と違った催しに困惑された様子の方もいらっしゃいましたが、時間が経つにつれて笑顔が多く見受けられるようになっていき私自身もつられて笑顔となっていました。

また、今回のワークショップで特に印象に残っているのが、ファシリテーターの方と一緒に行った早着替えでした。演目の途中から参加された利用者の方と共に観覧されていた際に早着替え用の暖簾？を一緒に持つ事になりましたが、その方は気分が乗らない事に対して情緒を乱しやすい方だったので最後までお手伝いができるか心配でした。しかし、早着替えが始まれば心配していたことが嘘のようにニコニコな表情を見せ、最後まで参加されているところを見て改めてノンバーバルコミュニケーションの凄さを実感できたと共に勉強になりました。

現在もコロナ禍から中止となった行事が多数あり、施設入所されている利用者の方も含め楽しみを提供できる機会が少なくなっておりましたが、多くの利用者様が楽しい・面白いと思えるような時間を過ごす事が出来たのではないかと思います。改めて今回のワークショップを企画して頂きありがとうございました。

プログラム概要【午後の部】

畑町ガーデン　１２月１２日（月）

時間	プログラム	写真
１３：２５～	ワークショップ開始 拍手 / 手拍子 / 自己紹介	
１３：３０～	ポーズ ダンス他	
１３：４０～	早着替え 変身ショー メイミパフォーマンス	
１３：５０～	庄崎パフォーマンス ミラーリング 皿まわし	
１４：００～ １４：２０	エアボール / エアなわとび 海のオーケストラ　チェロ ワークショップ終了 【参加者合計２５名】	

参加者の感想【午後の部】

畑町ガーデン　１２月１２日（月）

この度はお忙しい中、ワークショップの開催ありがとうございました。

お恥ずかしながら、“ノンバーバルコミュニケーション”という単語の意味を知らなかった私は、このワークショップがとても新鮮でした。言葉を上手に発する事が難しい利用者でも楽しそうに参加出来る事に感動しました。

久しぶりの行事は利用者だけでなく職員もどこか不安で、「最後まで参加する事ができるかな？」「大きな声を出して迷惑をかけないかな？」と始まる前は少しソワソワしていました。

はじめに行ったミラーリングは動きが止まってしまったり、予想もしない動きをする利用者の行動１つ１つを見逃さず、皆が盛り上がれるよう分かりやすく笑いに変えて下さり、私たち職員もいつの間にか一緒に楽しんでいました。「人前に立ってこれをやるのは難しいかな？」と思っていましたが、それは私たち職員の憶測で、お二人が利用者の“できる”を見つけてくれたような気がしました。

ワークショップ翌日の保護者からの連絡帳には「昨日はご機嫌に帰宅しました」「ワークショップが楽しかったようで、自宅でその話ばかりしています」といった連絡を多数いただきました。もちろん、「楽しかったね！」「次はいつやるの？」と施設内でも話題に上がっています。

利用者はもちろん、私たち職員にも楽しい空間をプレゼントして頂きありがとうございました。また、上手にコミュニケーションが取れなくても“楽しい”は作れるんだと学べました。

最後に、今回ワークショップを企画してくださった国際障害者年記念ナイスハート基金の皆様、庄﨑隆志様、メイミ様、このような機会を設けて頂きありがとうございました。

特定寄付金協力謝礼

＜実施事業の概要＞

東日本大震災後の不安定な環境により、福島の子どもたちは外で活動する機会が減り、とりわけ障害のある子どもたちに対する支援は行き届かない状況が続いています。このような環境の中、障害児とその家族の精神的負担は大きいものだと考えられ、支援の必要性を強く感じています。

2012 年度より実施した、福島の障害のある子どもと家族のための「ふくしまっ子キャンプ」では、３年次にわたり多くのご家族とボランティアの参加を得て、好評のうちに実施することができました。また、この活動に対して、2014 年度には募金総額 1,827,550 円（12 団体 /16 個人）のご寄付をいただき、支えていただきました。

2018 年度は三陸沿岸各地で道路が開通され、復興の歩みを進めておられる宮城県の石巻市・女川町を舞台に更なる人と人がつながりあう中での復興を願い実施させていただき、募金総額 368,000 円（5 団体 /5 個人）のご寄付をいただき支えていただきました。2019 年度は、前年７月の西日本豪雨において被害にあわれた広島市の障害のある方々に対して、未曽有の水害被害等の慣れない環境の中で生活されていた皆様に、新たな出会いとコミュニケーションについて考える場をつくり、障害や障害のある人への理解が深まることを目的に実施させていただき、募金総額 357,000 円（5 団体 /5 個人）のご寄付をいただき、支えていただきました。

今年度につきましては、2019 年台風 15 号等の豪雨災害の被災地である千葉県内の障害者施設を訪問し、障害の有無に関わらずお互いが尊重しあえるように、ノンバーバル（非言語）という方法でコミュニケーションについて学び場づくりを致しました。

みなさまに募金を呼びかけました「ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ in ちば」につきまして、多くの個人、団体のみなさまからご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

＜募金総額＞

465,000 円（8 団体 /8 個人）

戸井田 和彦様、（福）安芸の郷様、野口舜兵様、吉田力男様、大杉豊様、（特非）らっふる様、佐藤由弘様、障害者生活介護事業所ほほえみ様、谷本ひろ子様、（特非）みのりの会 理事長 照喜名邦雄様、（特非）自立支援センター歩歩路 理事長 潤口良一様、潤口良一様、（株）全国儀式サービス様、（福）起生会 玄海さつきの杜様、（株）スマイルリフォーム 代表取締役 松井宏之様、合田雅一様

編集後記

コロナ禍で延期・延期が続き、３年ぶりの開催に漕ぎつけたという表現が、心情としては一番近いと感じています。

今回訪問させて頂いたのは、コロナ以前は、ふれあいのスポーツ広場にご参加頂いた施設で、開催していただける施設に苦慮していた中で、快く引き受けて頂き、改めて感謝致します。

約３年ぶりとなる庄﨑隆志さんとメイミさんの共演で幕を開けた・・の前に、ノンバーバル・コミュニケーションワークショップそのものは、言葉を発しない時点で感染対策の一つがクリアされていましたが、人と人との距離を保つという点では、ハイタッチをしたり、握手をしたり、肩をくんだり、人と人とが接することで意思疎通を図ってきたこともあり、その対策を施しながらの開始となりました。

その対策の一つがスティックバルーンを使用した意思疎通。これは主に午前の部で使用し、始まってすぐに配りました。その後立て続けにメイミさんの早着替えや庄﨑さんのパントマイムや皿まわし等、矢継ぎ早の変身術で、どうにかコミュニケーションを図ろうとする演者の二人。やがて、示し合わせたようにスティックバルーンの動きに呼応してリズムを取り出す参加者が出現すると、３人の息がぴったり合う数少ない瞬間が、貴重なコミュニケーションの場へと変換していった気がします。

午後の部は、その場でしか味わえない空気感やリズムやおどりが、多々散りばめられていて、それを拾ってはつなげることに苦心する二人の演者。表向きは楽しんでる風にさえ感じられ、本能的に決めポーズが参加者と一緒になることもしばしば。その一つ一つの積み重ねが、コミュニケーションって言うんだろうなあと思いながら、マスク越しでもマスク無しの生活に戻っても、ノンバーバル（非言語）によるコミュニケーションの大切さに変わりがないと信じつつ、このワークショップに関わってくださった全ての関係者の皆様に御礼申し上げます。

（公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金 高倉 和樹）

2022 年度ノンバーバル・コミュニケーション・ワークショップ
実施報告書

2022 年 12 月発行
発行元　　公益財団法人国際障害者年記念ナイスハート基金